

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 4月 27日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20242018

研究課題名（和文）歴史における周縁と共生—疫病・触穢思想・女人結界・除災儀礼—  
 研究課題名（英文）Historical periphery and its harmonic coexistence:in Relation to epidemic, taboos, misogynous boundaries and the tradition of purifying rituals

研究代表者 鈴木 則子 (SUZUKI NORIKO)

奈良女子大学・生活環境学部・准教授

研究者番号：20335475

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本の歴史のなかで女性の周縁化（地位の劣化）が進行していく過程を、女性の身体に対する認識の歴史的变化に着目しつつ、医学・衛生・宗教・地域・出産/月経という主として五つの側面から検討を加えた。伝統的医学と近代医学それぞれの女性身体観、近代衛生政策における女性役割の位置づけ、仏教と神道の女性認識の変遷、血穢などに対する地域社会の対応の形成等について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The present study investigated historical changes in the awareness of the female body during the process of marginalization (deterioration in social status) of women in Japan's history focusing on five main aspects: medicine, sanitation, religion, geography, and childbirth / menstruation. Perspectives on the female body in traditional and modern medicine, the significance of women's roles in modern health policies, transitions in the recognition of women in Buddhism and Shinto, and the formation of community responses to impurity associated with bleeding were clarified.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
20年度	10,600,000	3,180,000	13,780,000
21年度	6,400,000	1,920,000	8,320,000
22年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
23年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
総計	27,900,000	8,370,000	36,270,000

研究分野：歴史学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：感染症・穢れ・女人禁制・巫女・衛生・月経・出産

## 1. 研究開始当初の背景

男女共同参画社会が提唱され、また女性の社会進出が著しく進む現代社会においてなお、様々な形で女性に対する差別と排除が存在する。日本におけるその象徴的な事例のひとつが「女人禁制」の残存で、日本の「文化的伝統」であるという言説のもとに宗教的な場や、国技たる大相撲の土俵でも許容されている。

その背景には女性身体を穢れたものとして特種視し、排除しようとする意識の形成が指摘されてきたが、日本史研究の現段階では、男女の生理的・身体的差異のうち、女性の出産や月経を伴う身体性が、当該社会条件の変動の中でどのように作用して、近現代に至るまでの女性の周縁化（地位の劣化）に繋がったかという問題は、理論的に明らかになっていないと言え難い。この問題を多様な角度から分析することによって、真の男女共生社会の実現を果たすために寄与すべく、学際的共同研究を組織した。

## 2. 研究の目的

「穢れ」の問題については、かつて中世史研究のなかで、触穢思想が平安初期に大陸から先進思想として輸入され、それが部落差別に結びついたことが指摘されたが、なぜ触穢思想が受容されたのか、女人禁制へと帰結したのかという点は検討されてこなかった。

これらの問題について分担研究者の脇田晴子が、中国・韓国から渡来した触穢思想は、日本の一定度の社会的発展により受容基盤が熟した平安初期、未熟な段階の衛生思想として都の貴族層に受け入れられたと推論することによって新たな論点を示した。当時疫病は怨霊（御霊）化した疫病神の祟りと考えられていたが、同時に死体や血液が疫病を媒介することを経験的に気づいており、「血穢」

「死穢」を忌避した。そして人間が避けることのできない生老病死の現象を「穢れ」とし、出産や月経で体内から出血する女性に責任を負わせ、死体を「死穢」に染むものとして弱者である被差別民におしつけたとみる。触穢思想は南北朝期に一定の普及をみせ、戦国期には解放の動きと農村への普及の動きとが交錯する。触穢思想とそこから生まれた女人禁制が一般民衆世界にまで広範に定着するのは、江戸中期と推論した。

日本近世史研究の側からも、例えば研究分担者の梅澤（宮崎）ふみ子は、恐山に女性が落ちる「血の池地獄」の成立を江戸中期と指摘する。ただし、成立の契機には観光化と寺院経営の問題が関わっていた。また、江戸中期といえば臨床を重視する親試実験主義の日本医学が確立し、庶民レベルに至るまで医療が普及していく時代であり、博物学が流行する時代でもある。

このようにみていくと、女性の周縁化を象徴する女人禁制の成立と展開には、穢れや衛生思想といったおおもとの枠を越え、各時代ごとに様々なファクターが作用していたことが想定される。これらのファクターを分析することにより、女性の周縁化をもたらしたメカニズムを明らかにすることをめざした。

## 3. 研究の方法

研究分担者・連携研究者の専門領域は医学・歴史学・人類学・民俗学・哲学・比較文化学など多岐にわたる。したがって、個別研究をそれぞれの学問領域の方法論で各自進行させながら、全体としては以下の形で共同研究を行った。

### (1) アンケート調査

初年度に、疾病・出産・葬送・祭礼に関する習俗について、アンケート調査を行った。この調査結果は現地調査先選定の参考資料とした。

## (2) 現地調査

各地の現地研究者の協力を得て、沖縄・九州・山陽・山陰・北陸・近畿・中部・関東・東北・北海道の、女性に関わる様々な習俗の事例や聖地を調査した。調査にあたっては地元の方々への聞き取りや、地方史研究者などとの学術交流も行った。

## (3) 研究会

研究分担者・連携研究者・ゲストスピーカーによる研究報告会を重ね、感染症・出産・宗教・祭礼といった側面から、女性の地位や身体へのまなざしの実態と変遷を中心に、広く討議をすすめた。

## 4. 研究成果

研究成果はこれまでも随時「科研ニューズレター」（1～15号）を発行してホームページ上で公開してきたが、最終年度に成果論集を作成し、全体の議論の集約を行った。

成果論集は以下のような構成である。

### (1) 感染症へのまなざし

前近代の日本医学や中国医学の分析を通じて、前近代社会においては感染症の疫学的性格に性差が強調されたことを明らかにした。

### (2) 衛生と近代社会

近代社会に入って衛生という概念が持ち込まれ広められていくなかで、従来の清潔観が変質するとともに、女性が衛生対策の担い手としての役目を担わされ、男性以上に衛生規範に絡め取られていく状況を明らかにした。

### (3) 女性と宗教

宗教的女人罪業観は中世仏教では希薄で、むしろ近世宗教が性や生殖を不浄視するようになる。これを否定したのが幕末の新興宗教であった。これらのことを史料に基づいて実証的に示した。

### (4) 地域と宗教

「聖都」伊勢では、日常生活で避けられない生老病死に伴う穢れに対し、生活機能への影響を最小限に留めて対応するため、様々な方便が存在したことを明らかにした。また、近代の地域社会における産土社の機能について、個別事例を蓄積した。

### (5) 女性と身体

出産の際の白屏風などが象徴する「白」という色が、出産の不浄性の象徴ではなく、魔除けの色であったことを明らかにした。また、現代社会では月経をはじめとする女性の身体性が、女性自身の側から自己のアイデンティティと深く結びつけようとする動きが現れていることを指摘した。

上記の成果論集の他に、一般の人びとを対象に研究内容をわかりやすく解説したショートムービーを作成した。ただし、これは画像資料に著作権の問題があるため、成果公表の方法の試みとして関連研究者にCDの形で配布するに留めた。

今後は上記の成果を韓国や中国の状況と比較することによって、日本の特殊性と普遍性を明らかにしていく研究を展開させていく必要があるだろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計13件)

①平雅行、親鸞の時代と仏教、伝道、査読無、76巻、2011、67-72

②小林丈広、近代京都の衛生行政—1900以前—、近代都市の衛生環境(京都編)別冊解説、査読無、別冊、2011、47-59

③平雅行、中世仏教における呪術性と合理性、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、157集、2010、1-27

④脇田晴子、The Japanese Woman in the Premodern Merchant Household, Women's History Review Vol.19, No.2、査読無、2010、259-282

⑤梅澤ふみ子、18～19世紀における参詣の流行と霊場の発展、東アジア宗教文化研究、査読有、創刊号、2009、165-196

〔学会発表〕（計16件）

- ① 長 志珠絵、「占領期文化研究の可能性」（占領期京都を考えるシンポジウム）、文科省 COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニズム拠点」、2012年3月16日、京都府 flowing KARASUMA2F（旧北国銀行）
- ② 鈴木則子、徳川綱吉の麻疹と幕府の麻疹感染予防策について、日本医史学会関西支部、2011年11月7日、京都市国際交流会館
- ③ 梅澤ふみ子、"Image of a medieval warrior in Tokugawa writings: Kumagai Naozane in Plays, Ballad-dramas, and Religious tales,"、The Early Modern "Medieval": Reconstructing Japanese Pasts, Ann-Arbor, USA
- ④ 成田龍一、歴史認識と女性像の書きかえー近代日本を学ぶ/教える、日本学術会議学術フォーラム「歴史認識を変えるー歴史教育改革とジェンダー」、2011年7月2日、日本学術会議講堂（東京都）
- ⑤ 鈴木則子、江戸時代の医学書に見る結核観の変遷、日本医史学会、2011年6月12日、茨城大学
- ⑥ 鈴木則子、江戸時代の婚姻と「癩」、第112回日本医史学会学術大会、2011年6月11日、順天堂大学本郷キャンパス
- ⑦ 鈴木則子、Medicine and Media in 19th Century Edo、平成21年度総研大国際シンポジウム、2009年12月16日、湘南国際村センター（神奈川県）
- ⑧ 鈴木則子、江戸時代の体重管理と養生、日本医史学会総会、2009年6月6日、アパンセ（佐賀市）

〔図書〕（計14件）

- ① 鈴木則子、吉川弘文館、江戸の流行り病麻疹騒動はなぜ起こったのか、2012、211
- ② 成田龍一、中央公論社、近現代日本史と歴史学、2012、296
- ③ 平雅行、法蔵館、歴史の中に見る親鸞、2011、212
- ④ 平雅行、筑摩書房、教行信証の思想、2011、289-308
- ⑤ 三枝暁子、東京大学出版会、比叡山と室町幕府一寺社と武家の京都支配、2011、379
- ⑥ 鈴木則子、明石書店、生活と福祉、2010、18-45
- ⑦ 鈴木則子、聯経出版事業（台北）、性別・身体興医療、2008、189-217

〔その他〕

ホームページ

<http://www.nara-wu.ac.jp/life/bunka/archive/index.html>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

鈴木 則子 (SUZUKI NORIKO)  
奈良女子大学・生活環境学部・准教授  
研究者番号：20335475

### (2)研究分担者

脇田 晴子 (WAKITA HARUKO)  
城西国際大学・人文学部・教授  
研究者番号：80088012  
平 雅行 (TAIRA MASAYUKI)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：10171399  
梅澤 ふみ子 (UMEZAWA FUMIKO)  
恵泉女学園大学・人文学部・教授  
研究者番号：60126000  
久保田 優 (KUBOTA MASARU)  
奈良女子大学・生活環境学部・教授  
研究者番号：20142292  
武藤 康弘 (MUTOU YASUHIRO)  
奈良女子大学・文学部・教授  
研究者番号：80200244  
三枝 暁子 (MIEDA AKIKO)  
立命館大学・文学部・准教授  
研究者番号：70411139  
成田 龍一 (NARITA RYUICHI)  
日本女子大学・人間社会学部・教授  
研究者番号：60189214  
武田 佐知子 (TAKEDA SACHIKO)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：00181412

### (3)連携研究者

小林 丈広 (KOBAYASHI TAKEHIRO)  
奈良大学・文学部・教授  
研究者番号：60467397  
白杉 悦雄 (SHIRASUGI ETUO)  
東北芸術工科大学・デザイン工学部・教授  
研究者番号：30296032  
谷口 美樹 (TANIGUCHI MIKI)  
富山大学・医学薬学研究部・准教授  
研究者番号：40324032  
福田 真人 (FUKUIDA MAHITO)  
名古屋大学・国際言語文化研究科・教授  
研究者番号：90208968  
脇田 修 (WAKITA OSAMU)  
大阪歴史博物館・館長  
研究者番号：50027968  
濱千代 早由美 (HAMACHIYO SAYUMI)  
皇學館大学・非常勤講師  
研究者番号：60599520

長 志珠絵 (OSA SHIZUE)

神戸大学・国際文化研究科・教授

研究者番号：30271399

尾鍋 智子 (ONABE TOMOKO)

立命館大学・非常勤講師

研究者番号：60594091

菅谷 文則 (SUGAYA FUMINORI)

橿原考古学研究所・所長

研究者番号：10275175

山崎 明子 (YAMAZAKI AKIKO)

奈良女子大学・生活環境学部・助教

研究者番号：30571070

(4)研究協力者

加藤 美恵子 (KATOU MIEKO)

中世史研究者

栗山 茂久 (KURIYAMA SHIGEHISA)

ハーバード大学・教授